

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市都市計画審議会小委員会(第10回)				
事務局 (担当課)		まちづくり計画部 都市計画課 電話042-769-8247(直通)				
開催日時		令和元年10月3日(木) 午前10時00分~11時30分				
開催場所		相模原市民会館3階第1中会議室				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	13人 (都市建設局長、まちづくり計画部長、都市計画課長、他10人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の策定について				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員長の発言、 は委員の発言、 は事務局の発言 )  
事務局から資料説明を行った後、質疑を行った。

中央区の区民会議において、都市計画マスタープラン(案)の中央区の区別構想案を中心とした概要報告があったが、区民会議の委員には、全体を通した説明が必要だと感じた。また、中央区の構想においては、若い人が住みたくなるような夢を持たせる視点が薄いのではないかと、という意見があった。

○相模原市都市計画マスタープラン(案)概要版の6ページにあるように、相模原市では周辺市町と連携しながら大都市並みの生活ができ、自然が多いというような特徴をもっとアピールしても良いのではないかと。

相模原市都市計画マスタープラン(案)概要版の20ページに関して、中央区の目指す姿が6項目示されているが、区別基本計画案では、「人とまち宇宙をつなぐ中央区」というキャッチフレーズを用いており、整合は図られているのか。

担当課への確認を行った上で、中央区の目指す姿は表記されている6項目と回答があった。そのため、都市計画マスタープランでも同じ表記を引用しているが、改めて再確認する。

相模原市立地適正化計画(案)概要版の11ページで拠点類型の性質、各拠点や拠点・集落間が連携する都市構造となることが分かりやすく示せると良い。

他都市との比較等で違いがわかると、より相模原市の特徴をアピールできると思う。

実現化方策について、市民の意見をどのように収集し、どう施策につなげていくのかが明確になると良いと思う。

都市部でなくても、例えば緑を見ながら生活できるマンションがあるなど、自然に囲まれた地域でも魅力ある生活ができる都市のあり方が描けると良いと思う。

大規模店舗は地域外から来訪者が来るため、地域にとっての活力となる可能性がある。地域に大きな影響を与える大規模店舗の撤退については、ある程度行政が介入する必要があるのではないかと。

米軍住宅は、道路整備を行う際の支障になるなど、都市計画的にも課題を有している。長期的には今後のあり方を検討する余地があるのではないかと。

居住誘導区域の設定に影響を及ぼすハザードマップは、立地適正化計画の策定前に最新の情報とした方が良い。

ハザードマップは随時更新しており、本計画に使用する図表については常に最新の情報を扱うようにしている。届出制度の運用の際も同様の考えである。

## 審 議 経 過

和暦表記では平成と令和をまたぐため、年数の計算がしづらい。西暦を併記した方が良いと思う。

相模原市立地適正化計画（案）概要版 1 ページで「高齢化によっておこる課題」の記載があるが、雇用延長などで働く高齢者がいる中で、高齢者をひとくりに課題として扱うのは、高齢者の意に反する可能性があるため表現に配慮が必要である。地域包括支援センターは、高齢者支援センターの名称で認知されているため、併記するなど市民にもわかりやすいように工夫した方が良い。

概要版は多くの方が目にするものであるため、特に中山間地域においても豊かな生活ができるということをアピールするなど、表現や体裁については配慮が必要だと思う。

相模原市都市計画マスタープラン（案）概要版 24 ページの図について、今後図のような体制を構築するために具体的に行政が何を行うのかを分かりやすく示した方が良い。区民会議、地区別まちづくり会議との関係性などが分かる見せ方をした方が良い。

相模原市は多様性を有する地域が多く存在するため、上位の計画のみならず個々の地域との関わり方を考えていく必要がある。特に今後、空き家の管理等市民自治の中で解決していく問題も多々出てくると思われるため、市民自治の重要性は高まっていく。

相模原市は都市部と中山間地域がある中で、中山間地域の豊かな資源を生かせるようなネットワーク形成が必要だと思う。また、高齢者から子供までつながりのある相模原市を目指せるとよいと思う。

本日頂いたご意見を基に、市民へ提示する資料に関して、表現や体裁など内部で検討していく。

相模原市は政令市で唯一、非線引きの都市計画区域を有する。都市部と中山間地域という性質の異なる 2 つの都市計画区域をまとめる都市計画マスタープラン及び立地適正化計画となることを再認識する必要がある。

今後においては、本市らしさを表現するもの、市民への親しみやすさを向上するものとして、挿絵の追加や図の修正などの工夫を行っていく予定である。

実現化方策にて SDGs について記載することは良いと思う。市民の理解が得づらい施策であっても SDGs を根拠として施策の説明を行う事で、理解が得やすくなるなどの利点もあると思う。SDGs は今後全市的に推進して欲しい。

以 上

## 相模原市都市計画審議会小委員会(第10回)委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学 社会情報学部 社会情報学科 教授		出席
2	伊藤 彰英	麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科 教授		出席
3	加藤 仁美	東海大学 工学部 建築学科 教授	副委員長	出席
4	西浦 定継	明星大学 理工学部 総合理工学科 教授	委員長	出席
5	保井 美樹	法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授		欠席
6	八木 健一	相模原市農業委員会 会長		出席
7	落合 幸男	相模原市農業協同組合専務理事		出席
9	大塚 亮一	公益社団法人神奈川県 宅地建物取引業協会 副会長		出席
10	澤岡 詩野	ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員		出席
11	中西 泰子	相模女子大学 人間社会学部 社会マネジメント学科 准教授		欠席